

作者は、痰を吐くような男車掌が登場させることで、主人公と父親の別れをせかすように設定した。男車掌が登場することにより、主人公と父親の別れをはっきりとしたものにし、父親の複雑な気持ちをより強く表すことができる。 古沢君

作者は、男車掌が痰を吐く場面を設定することで、父親との別れをより悲しくしていることを読者に分かってもらうために、男車掌が痰を吐く場面を設定した。男車掌が二人をせかすことで、別れの区切りがはっきりできるので、男車掌は必要だということが分かる。 岡部君

作者は、主人公が父親と別れたくなくて、でも、それをいうわけにはいかななくて、つい別れを引き延ばしたけど、別れの時間は必ず訪れることを表現するためと、主人公を現実に戻すために、男車掌が痰を吐く場面を設定した。 澤本さん

この場面では、少年と父親が別れる。バスに乗るといふ場面で、家族思いの父との別れは、少年にとってすごく寂しく、本当は行ってほしくないなどという気持ちがよく表れている。また、何度も黙る場面があり、普通だったらたくさん話すのに……と私は思いました。

車掌が痰を吐いてから言った理由は、少年に対してけじめをつけなさいなどという気持ちが読み取れるので、設定した。 種田さん

作者は、父親が終バスで町へ出る、すでに、はやくもなどの言葉を使って、家族ともっと一緒にいたいことを表現している。バスが来てもなかなか乗らない父親に男車掌が降りてきて道ばたに痰を吐いてから早くバスに乗るようにせかせ、野太い声で車掌が言ったときは、そこから家族との楽しい時間は終わり、また働かなければいけない現実に引き戻された設定をした。 田中さん